

○ 委員長報告

2月定例会本会議で報告された経済企業委員長報告は、以下のとおりです。

平成29年2月定例会

経済企業委員長報告

報告いたします。

当委員会に付託されました議案の審査結果は、お手元に配付されております委員会審査報告書のとおりでありまして、いずれも原案のとおり可決決定されました。

以下、審査の過程において論議された主な事項について、その概要を申し上げます。

まず第1点は、東予地域における産業人材の確保・育成についてであります。

このことについて一部の委員から、東予地域のものづくり企業の人材の確保・育成のため、どのような取り組みをしているのかとただしたのであります。

これに対し理事者から、企業の人材確保を支援するため、ジョブカフェ愛ワークにおいて、中高生向けのスゴ技企業の紹介冊子の作成・配布や、ものづくりの職場見学会などを実施するとともに、東予地域においては、新居浜西条ものづくり人材確保協議会を設立して、ニーズ調査や意見交換を行い、企業見学会や出張講座などに取り組むほか、今月末には、大都市圏の本県出身学生の地元就職を支援するための合同会社説明会や交流会、企業訪問を実施することとしている。

また、ものづくりの人材育成に向けて、今治、新居浜の高等技術専門校において、各種の職業訓練を実施しているほか、今年度からは、「地域創生人材育成事業」として、えひめ東予産業創造センターや今治地域造船技術センターと連携して、研修プログラムや職業能力を測る仕組みの開発に取り組み、来年度からはこれらに基づく訓練実施を予定しているなど、業界を担う技能労働者の定着率や生産性の向上を図ることとしている旨の答弁がありました。

第2点は、首都圏愛媛発信拠点整備事業についてであります。

このことについて一部の委員から、本事業では、オリンピック開催に向けてビジネスチャンスが拡大する中、本県の物産・観光の発信力強化に向けて、せとうち旬彩館とも絡めて、どのような拠点整備に取り組むのかとただしたのであります。

これに対し理事者から、オリンピックというまたとないビジネスチャンスに向けて、地域間競争が激化する中、本県の注目度・好感度を高めるためには、旬彩館の好調な実績を確保しつつ、首都圏の消費者、来日外国人やメディアの

目線で、テーマや品揃え等を精選した、訴求力の高い本県独自の発信の場が重要である。

拠点は、旬彩館との役割分担と連携のもと、民間ならではの企画力や発信力、販売力を最大限発揮した、柑橘、海産加工品や伝統工芸品等本県の強みを活かしたセレクトショップとしての売場づくりや、愛媛ファンを形成するためのイベントの充実などに重点を置いて取り組むことにより、首都圏の幅広い消費者や国内外の観光客に本県の魅力を強力に発信する、愛媛の新たな顔として整備を進めていきたい旨の答弁がありました。

第3点は、県立新居浜病院の整備についてであります。

このことについて一部の委員から、県立新居浜病院の建替えにおいて、PFI方式ではなくデザイン・ビルド方式を採用する理由は何かとただしたのであります。

これに対し理事者から、

- ・低金利の局面では、民間資金を活用するよりも財政投融資を活用した起債の方がトータル的に有利であり、また、SPCの運営コストなど一定の固定費を拠出してまでPFIを導入するメリットはあまりないこと
- ・PFI方式で運営している県立中央病院における調達業務での高い値引率や、発生したインシデントに関する改善策等の情報共有など、PFI方式で得られるノウハウやメリットは、既に他病院でも活用できていること
- ・また、災害拠点病院である新居浜病院は、早期の建替えが必要であるが、PFI方式では、法定の手続きに一定の期間が必要となり、期間短縮を図るためにもデザイン・ビルド方式を採用すること

とした旨の答弁がありました。

このほか、

- ・窯業技術センターの整備
- ・再生可能エネルギーの導入推進
- ・病院事業未収金の権利の放棄

などについても、論議があったことを付言いたします。

以上で報告を終わります。